

名古屋に作業所、生活訓練も

高次脳機能障害者を支援

交通事故などの後遺症として生じる高次脳機能障害の人が、安心して過ごせる作業所「チャレンジハウス」みらい愛知」が名古屋市中川区開平町一に開設した。一般の障害者授産所やデイケア施設と異なり、生活に必要な買い物や料理などの訓練を取り入れた。「障害のある若者が親亡き後、一人で生活できるように」と切実な願いが込められている。

(渡部圭)



生活訓練の一環でギョーザを作る尾山一樹さん(右)＝名古屋市中川区開平町一で

高次脳機能障害の人は新しい出来事を覚えられない、ぼんやりしてミスをする、感情の抑制がきかないといった症状がある。他人に厳しく注意をするなど融通のきかない人もおり、日常生活、社会生活の適応が難しい。

みらいの所長を務める尾山芳子さん(左)＝同市中川区の次男一樹さん(右)は十九歳だ

「居場所できトラブル減った」

作業所「チャレンジハウスみらい愛知」は住宅地の中の旧店舗を改装した二階建て。白を基調とした内装で、カラフルなテーブルクロスや熱帯魚の水槽を置くなど明るい雰囲気だ。利用者は、冊子にチラシを入れるなどの軽作業のほか、運動や昼食を取るなどして過ごせる。

公共交通機関を使っ

高次脳機能障害 頭部外傷や脳血管障害などで言語、認知、行為、記憶といった高次脳機能に障害がある状態。交通、転落、水難事故のほか、脳梗塞や脳出血などが原因で誰でもなり得る。外見からは障害者だと分かりにくい「見えない障害」ともいわれ、周囲の理解を得にくい。適切な診断がなされず、本人も家族も障害を自覚していないケースもある。

つた一九九二年秋の障害に。市総合リハビリテーションセンター(同市瑞穂区)や授産所のオートバイに乗り上げて転倒。ヘルメットを着用し外傷もほとんどなかったが、半年間意識不明になった。一年後に退院したが、重度の高次脳機能の若い患者の家族ら

て水族館や動物園にハスミライ愛知」は出掛けたり、スーパーや郵便局に行ったり、料理を作ったりもする。現在、一樹さんを含め五人が利用する。

開設と同時に通う塩見健志郎さん(三)＝同市天白区は二〇〇六年、十六歳の時、バイクを運転中に車と衝突。三カ月後に意識が戻り、順調に回復した

よく見えたが、漢字を思い出せないなど記憶障害が残った。駅でゴミを拾い続けたり、傘を差して自転車の乗る人を注意したりと「こたわり」が強い。一樹さん(右)は「トラブルも減った」と安心している。

と、全国初の脳外傷患者の家族会を立ち上げるなど奮闘してきた。一樹さんの症状は二十余で徐々に改善しているが、今もその日に食べた物や会った人を思い出せない。一人で暮らすアパートでの掃除、洗濯などはヘルパーの助けが。自立する訓練の場と普段の居場所が必要」と痛感していた芳子さんは退職を機に、交通事故被害者を支援する団体のメンバーらと協力し今年八月、みらいを立ち上げた。

落ち着いて過ごし、トラブルも減った」と安心している。

尾山芳子さんは「家族の身になって、同じ悩みを持つ人たちが助け合っていきたい」と話している。チャレンジハウスみらい愛知は052(352)0677(月～金曜)、ポータルサイト

http://koujinou.nct

楽し、一宮

漫画「神

市出身の人

村有菜さん

せたイベン

内で四日開

ント「一宮

エスタ大集

した。

三十日ま

種村有

サイン

ら二

公明県本

伊藤衆院

日、名古屋

会を開き、

荒木清寛代

新代表に伊

員を選んだ。

は鬼頭英一

区)に代わ

県議(一宮